

1. 概要

今冬（2025年寒候期：2024年12月～2025年2月）は、会津を中心に3年ぶりの大雪となり、1月、2月には、会津に大雪警報を発表した。

このうち、2月4日から9日にかけては、日本付近は強い冬型の気圧配置となり、東北地方の上空約5,000メートルには氷点下42度以下の強い寒気が流れ込み、会津を中心に大雪となった。その後も冬型の気圧配置となる日が多く、強い寒気の影響で23日にかけて断続的に大雪となった。この大雪で、2月7日の日最深積雪は、若松（特別地域気象観測所）では121センチ、金山（地域気象観測所）では235センチとなり、いずれも統計開始以来の極値を更新した。

この大雪により、会津を中心に除雪作業に関連した事故で死者4名をはじめとする人的被害のほか、住家・非住家の半壊や一部損壊、農業施設への被害などが多数発生した（新聞報道による）。

また、山形新幹線や磐越西線・只見線などの在来線、路線バス等で運転見合わせや運休が実施されたほか、磐越自動車道や国道49号線では除雪や雪の影響による通行止めが度々実施された。これら交通への影響から、会津地方の公立学校では最長13日間の休校措置がとられ、会津若松市では可燃ごみ以外の収集を一時停止するなど混乱が生じた。

福島県では2月7日に13市町村を対象に災害救助法を適用し、その後対象を追加して2月10日に19市町村へ適用した。

本資料は、1月、2月の大雪警報発表時の気象概況や警報等の発表状況、福島地方気象台の対応などに加えて、今冬の気象概況を簡単に取りまとめたものである。